

経済振興委員会報告資料

史跡の整備について

令和 8 年 2 月
経済観光文化局

2 元寇防塁（箱崎地区）の整備について

九州大学箱崎キャンパス跡地内の元寇防塁(南エリア)の整備・活用について、史跡の保存継承とともに、まちづくりとも調和する歴史資源として磨き上げるための検討を進めている。

■ これまでの検討状況

令和4年3月 整備基本計画 策定

令和4年9月議会

(報告)九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりにおける経済観光文化局の検討状況について

⇒元寇防塁の整備・活用の基本的な考え方を報告

令和5年6月議会

(報告)史跡元寇防塁箱崎地区の土地取得について

■ 史跡指定地の経緯

平成28～令和3年度 九州大学箱崎キャンパス移転に伴う発掘調査で遺構を確認

令和2年3月

南エリア国史跡指定

令和3年10月

北エリア国史跡指定

令和5年度

南エリア公有化

令和7年度

北エリア公有化予定

(1) 史跡指定地の現況

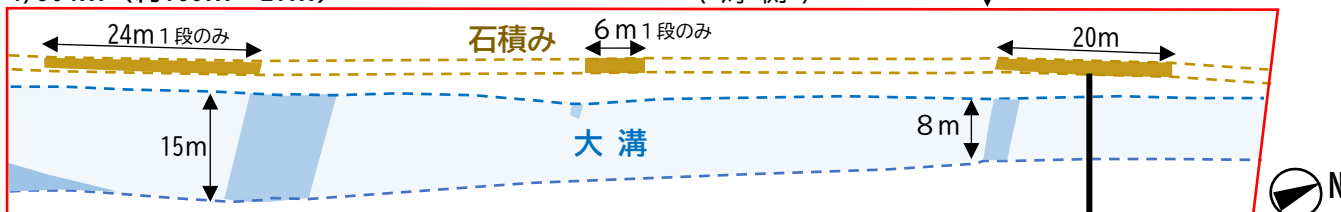
○箱崎地区の元寇防塁は、石積みとその背後に大溝を有することを特徴とする。

○発掘調査で部分的な遺構の残存が確認され、現在は遺構保存のため地下に埋め戻している。



史跡の現況 平面図

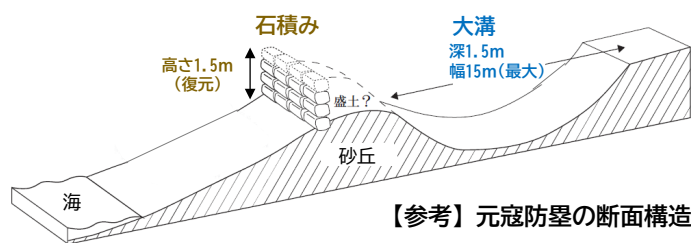
4,504㎡ (約160m×27m)



元寇防塁の石積みの残存が確認された範囲

元寇防塁の大溝の残存が確認された範囲

〈陸側〉



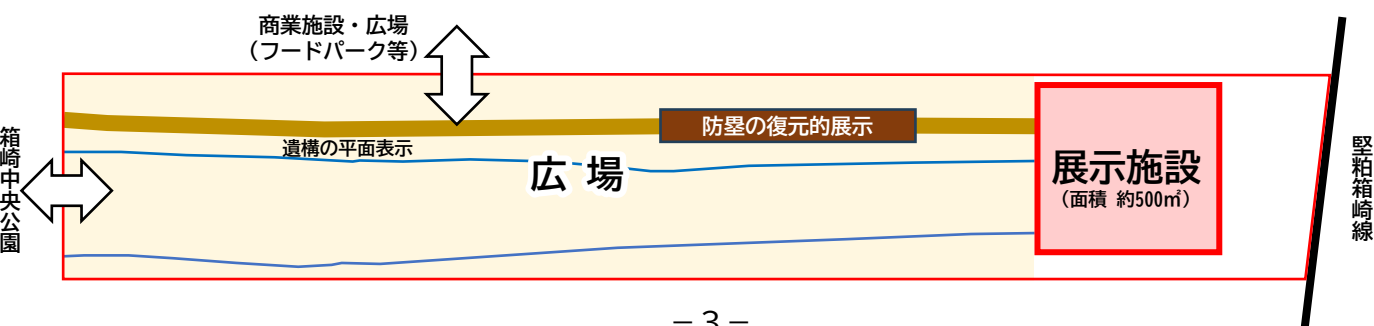
【参考】元寇防塁の断面構造

※この範囲のみ石積みが3段残存



(2) 整備の平面イメージ

○中世の景観を伝えつつ、まちと一体感のある、にぎわいや来訪者の憩いの空間を創出する。



(3) 展示施設の検討

箱崎地区の中で、遺構の残存状態が最も良い範囲を覆う、展示施設（約500㎡）での公開と活用の手法を検討。

- 遺構の保存を前提として、史跡のリアリティを伝える、現地ならではの元寇防塁展示。
- 史跡や箱崎エリアへの理解を深める歴史ストーリーについて、没入感を高める映像で発信。
- 子どもが楽しく元寇の歴史を学べる体験展示。
- 市内の元寇防塁等、関連遺産への周遊を促進する拠点づくり。

⇒史跡整備や公開・活用の手法を検討するにあたり、整備活用検討会を設置し、幅広い専門的見地から有識者の意見を聴取して、進めていく。

■ 第1回検討会（令和8年1月7日実施）での主な意見

- ・元寇防塁の全体感と長大さを海側からの視点で伝える展示手法を検討した方がよい。
- ・海に近い立地や、元寇防塁築造以前からの歴史的な流れを伝える映像等が必要ではないか。
- ・箱崎地区や各地区の築造方法の違いについて、体験を通して学べる展示を検討してほしい。

【遺構展示のイメージ】



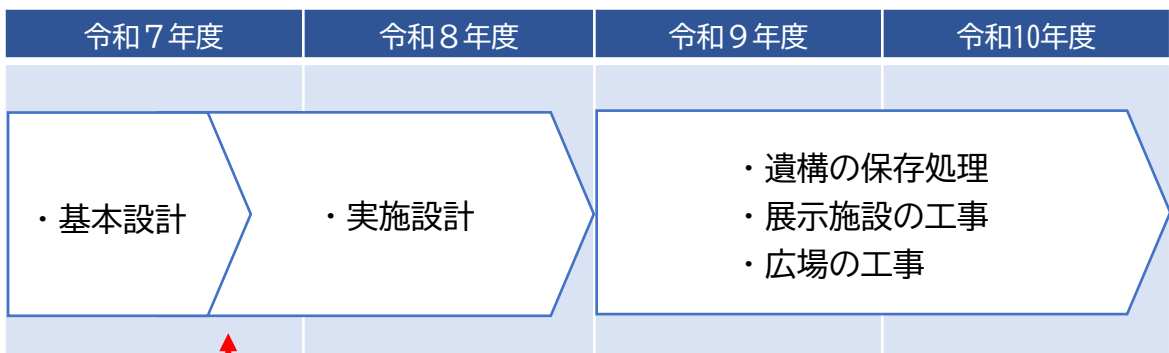
【海側（西）】

石積みみの残存状態が最も良い範囲の露出展示
石積み正面の見学デッキから、発掘された遺構を臨む

【陸側（東）】

攻め寄せる元軍の情景などを映像で再現した演出や、
防塁の構造や高さを復元したレプリカによって、
日本軍の守りを体感

(4) 今後のスケジュール（案）



今回報告

※今後の事業進捗については、地域や九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり事業者、文化庁と引き続き協議し、適宜議会のご意見を伺いながら検討を進めていく

第 1 回 史跡元寇防塁（箱崎地区）整備活用検討会 議事要旨

■ 展示施設について

①遺構展示

- ・海側からの視点で、石積みの全体感や長大さを伝える展示を検討した方がよい。
- ・防塁をレプリカ等で復元するなら、箱崎地区の調査や研究成果に沿ったものとするべきで、今津地区や生の松原地区とは異なる観点で復元する必要がある。

②映像を活用した理解促進

- ・海が近いことが体感できる映像はインパクトがあってよい。
- ・防塁の築造過程などを、築造前からの時系列に沿った映像で見せたうえで、今ここに残っているのが露出展示する石積み遺構であることを伝える手法を検討した方がよい。
- ・壁面映像のほか、俯瞰や双方向性を高める 3D ゴーグルや、タブレットの利用などが考えられるが、それぞれ長短所があるので、コンテンツの内容やターゲットに応じて手法を検討していくのがよい。

③体験展示など

- ・防塁の地区ごとの築造方法や構造の違いがわかる体験展示があるとよい。築造体験など、能動的なコンテンツが効果的では。
- ・兜の着装体験などは、アナログ手法の方が外国人受けもよく、フォトスポットにもなる。
- ・兜を着けた武将隊などの人が説明する手法もある。ヨーロッパでは、地域ボランティアの活用が多く、地域とのつながりやシビックプライドの醸成にもつながっている。
- ・レプリカを触るだけの展示は効果が薄い。「てつはう」のように、映像を交えて伝えたほうが効果的と考えられるコンテンツもあるのではないかな。

■ その他

- ・箱崎に九州大学があったこと、九州大学総合研究博物館との連携も考えてほしい。
- ・箱崎は東の玄関口になるので、福岡全体が把握でき、これからどこに行けばいいのかというコンテンツを供給すべき。
- ・周遊としては、元寇からみた市域全体、箱崎のマチ、九大跡地内の 3 つのレイヤーがある。まち歩きなどの情報発信も検討してほしい。